



11

分野 エネルギー

地域の防災拠点におけるブラックアウト（大規模停電）対策

～太陽光発電・蓄電池設備により、グリーンなエネルギーを活用し有事の際の電力供給を実現～

■ 課題

- 近年の災害件数の増加・激甚化を受けて、地域の避難施設などでは、災害時の電力供給の確保が喫緊の課題となっています。
- また、再生可能エネルギーの利用やエネルギーの地産地消など、平常時における地域社会のエネルギーに対する期待も大きく変化しています。



■ 取り組み

千葉県千葉市では、新たなエネルギーソリューションによって災害時の被災者生活早期安定化を実現するため、「災害時の新たなエネルギーインフラ活用等の実証に向けた共同検討に関する協定」（2019年2月）をNTTグループと締結し取り組みを進めています。

避難所となる市内の公民館・学校に、太陽光発電設備、蓄電池を整備し、平時はグリーンな電力を供給しつつ、災害などによる停電が発生した際は、避難生活に必要な電力供給を可能とする運用を開始しました。また、災害時における自社保有の電気自動車（EV車）の派遣による電源確保などを通じ、レジリエンス強化に取り組んでいます。

今後、NTTグループが所有するインフラ設備・最新のICTに関する知見・技術などを活用し、災害時の安定した電力供給など、他の地域・自治体のモデルケースとなりうるソリューションの実現をめざします。

イメージ

<平時>
地域の地産地消促進

<災害時>
地域のレジリエンス強化

